

# 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。立秋も過ぎましたが、まだまだ暑い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。

昨年から般若心経の意味を学んでいるかわら版。生き方や社会のあり方を考える際の道標(みちしるべ)です。

先月までに二百四十八文字について学びました。あと二十二文字。今月と来月はよいよクライマックス。ご心経の真髓が凝縮されている部分です。

最も難解な「羯諦羯諦(ぎやてーぎやてー)波羅羯諦(はーらーぎやてー)波羅(はーらー)菩提薩婆訶(ぼーじーそわかー)」の十八文字。今月は前半の八文字です。インドから伝わった仏教典はサンスクリット語で書かれていました。それを西域(シルクロード)や中国の僧が漢訳。しかし、この十八文字は音写されています。サンス

クリット語の原典をそのままの音で漢字を当てているだけです。

サンスクリット語の発音をカタカナ表記すれば「ガテীগアテーパーラガテーパーサンガテীবオーデイスヴァーハー」となるそうです。

さっぱりわかりませぬ(笑)。世界の言語は微妙な接点があります。「ガテー」は英語の「ゴー」に転化したと言われており、つまり「行く」という意味です。というわけで「羯諦羯諦」は「行こう、行こう」と呼びかけているのです。

次の「波羅」は「波羅蜜多」の前半二文字。「波羅蜜多」はここまでに六回登場しています。覚えていきますか。

こちらの岸(此岸、しがらみ)からあちらの岸(彼岸、ひがみ)に渡る。つまり、彼岸に渡って悟りの境地に達することです。「波羅」は後半二文字を省

略して「悟りの境地」を意味していますので、「波羅羯諦」は「悟りの境地を行こう」となります。

「羯諦羯諦波羅羯諦」は「行こう、行こう、悟りの境地へ行こう」。そりゃあ、悟りの境地に至れば嬉しいですよ。でも簡単ではありません。

大衆(人々)が救われ、世の中(社会)の争いごとを少なくするためには、一人ひとりの心の持ちよう、生き方、人間哲学が大切です。それを説くのがご心経です。

多くの人に親しまれるご心経。ここまでに二百五十六文字について学びました。あと十四文字。来月はクライマックスの後半十文字。乞ご期待。

それでは皆さん、来月までごきげんよう。合掌。

※



## かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ15年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

好評発売中

